

《担当者名》 橋本 菊次郎 hashimoto-kiku@hoku-iryo-u.ac.jp 奥田 かおり 鈴木 和 向谷地 生良

【概要】

精神保健福祉援助実習（配属実習）のための中間・事後学習として、小グループに分かれて、実習の振り返りと、新たに生まれた課題について整理し、実習報告書にまとめる。

精神保健福祉援助実習は、精神保健福祉士として必要な資質・能力・技術を総合的に身につけるとともに、それらを理論化し実践活動に応用できるようになることを目標とする。実習指導 は、そのための中間・事後学習として、実習課題の作成、実習の振り返り、新たに生じた課題の整理と展開、実習報告書の作成、実習報告会の開催などを行い、実習の成果を確実なものにできる。

【学修目標】

- 1 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己の課題把握等、総合的に対応できる能力について理解する
- 2 具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	実習 の振り返り	実習中の疑問、ジレンマ、戸惑いについてのディスカッションを通じてソーシャルワークの価値・技術を学ぶ。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
2	実習 の振り返り	実習中の疑問、ジレンマ、戸惑いについてのディスカッションを通じてソーシャルワークの価値・技術を学ぶ。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
3	実習 に向けた課題の整理と展開	実習 を踏まえ、実習 「実習計画書」の作成・訂正をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
4	実習 に向けた課題の整理と展開	実習 を踏まえ、実習 「実習計画書」の作成・訂正をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
5	実習 に向けた課題の整理と展開	実習 を踏まえ、実習 「実習計画書」の作成・訂正をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
6	実習 に向けた課題の整理と展開	実習 を踏まえ、実習 「実習計画書」の作成・訂正をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
7	実習前学習	実習先の理解、実習計画書に書いた事前学習についてディスカッションを通じ学ぶ。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
8	実習前学習（事前訪問）	事前訪問を実施し実習課題を含む最終的な調整を実習先施設と行う。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
9	実習前学習	実習オリエンテーション 実習内容の最終確認と実習に関する諸注意について理解する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
10	実習（18日間） 帰校日指導	面接、グループによる実習の振り返り 実習の進捗状況を報告する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田 実習指導者
11	実習（18日間） 帰校日指導	面接、グループによる実習の振り返り 実習の進捗状況について報告する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
12	実習 の振り返り	実習中の疑問、ジレンマ、戸惑いについてのディスカッションを通じてソーシャルワークの価値・技術を学ぶ。 評価表を用いて自身の実習を評価する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
13	実習 の振り返り	実習中の疑問、ジレンマ、戸惑いについてのディスカッションを通じてソーシャルワークの価値・技術を学ぶ。 評価表を用いて自身の実習を評価する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
14	実習全体の振り返りとまとめ	実習 ・ のまとめとケースレポート（個別支援学習）の作成。 実習を通じて学んだことを集約し、個別支援学習を実	向谷地、橋本、鈴木、奥田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		施する。	
15	実習全体の振り返りとまとめ	実習 ・ のまとめとケースレポートの作成。 実習を通じて学んだことを集約し、個別支援学習を実施する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
16	実習全体の振り返りとまとめ	実習 ・ のまとめとケースレポートの作成。 実習を通じて学んだことを集約し、個別支援学習を実施する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
17	実習報告書作成	実習体験を報告書にまとめる。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
18	実習報告書作成	実習体験を報告書にまとめる。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
19	実習報告書作成	実習体験を報告書にまとめる。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
20	実習報告会準備	実習報告会に向けての発表資料を作成し、発表の練習をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
21	実習報告会準備	実習報告会に向けての発表資料を作成し、発表の練習をする。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
22	実習報告会	グループ毎に実習体験について報告する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田
23	実習報告会	グループ毎に実習体験についての報告する。	向谷地、橋本、鈴木、奥田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

グループ学習（発言、授業態度等）30%

ケースレポート等グループ発表 40%

プレゼンテーション（実習報告会）30%

【教科書】

使用しない

【参考書】

その都度紹介する。

【備考】

本科目及び「精神保健福祉ソーシャルワーク実習指導」（3年次後期）を履修することにより、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目「精神保健福祉援助実習指導」を履修したことになる。

【学修の準備】

実習計画書、実習報告書、ケースレポートの作成

グループ発表の準備

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

DP5 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

【欠席等の扱いについて】

基本的に欠席は認めず、やむを得ない欠席（欠席届対象）の場合は、補講を実施し、レポートの提出を求める。

【実務経験】

向谷地生良（精神保健福祉士）、橋本菊次郎（精神保健福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、鈴木和（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉士、ソーシャルワーカーとしての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。